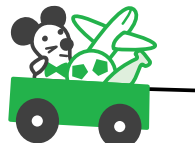


障害児余暇支援 続報



●夏休みの3日間、障害児余暇支援を実施しました●

障害児余暇支援とは？

学校が休みの土・日曜日や長期休暇になると、障害のあるお子さんは家で過ごすことが多くなってしまいます。保護者以外の方と遊んだり出かけたりする機会を提供するものです。

(これまで、活動の内容を中心に掲載してきましたが、今回は、利用した保護者の声と、ボランティアの声をお聞き下さい。)

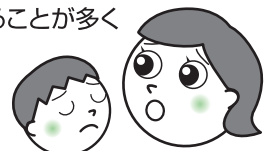
活動に参加したお子さんの保護者に聞きました

Q1 活動はいかがでしたか？

- ボランティアが複数ついていて安心できました。
- 夏休みは保護者といることが多く、お互いに息がつまりそうなので、本当にありがたかったです。
- 集団活動・ルールを守る等学べる場になりました。
- 活動最終日の前日、子どもがいつも利用日に持っていくリュックを持ってきて、「明日、活動へ行くよ」と言っていました。翌日の活動に参加することを楽しみにしていたようです。

Q2 いまお子さんの余暇で一番困っていることは何ですか？

- 親といつも一緒ということに子どもも不満を持っていて、生き生きしていません。
- いつもワンパターンの生活で、子どもの活力がなくなってしまう。
- 外に出るときは、誰かが必ず一緒にいないといけないので、どうしても家にいることが多いです。



Q3 どんな余暇活動を希望しますか？

- 運動や外出をさせたいです。
- 水泳教室や歌・楽器など、目的がはっきりしていて、継続して活動できるものがあると良いです。



自由意見

●保護者と一緒の時間が多く、多くの人に接する機会があると良いと思います。今後もこの活動を継続してほしいです。

お子さんが、保護者から離れて外出する機会や、運動する場所が必要なんです。活動を見守ることが必要なお子さんたちです。地域の多くの方にこの活動を知っていただき、活動が広がると良いと思っています。

活動に参加したボランティアに聞きました

Q. 活動はいかがでしたか？

- 障害というより、個々の個性を知り関わることができ、良い経験ができました。
- 色々な思いの親子の姿を知ることが少しですができました。自分には何ができるのか考えました。
- 現在、保育士を目指しています。良い経験ができました。
- 色々な障害のある方がいることを頭の中だけでなく実際に知ることができました。周りを見る目が優しくなる気がします。
- 気持ちをそのまま思い切りぶつけてくる子どもと一緒に走り回れて楽しかったです。



障害やそのご家族のことを考えたり、ボランティア同士の交流等を通して、視野が広がるというご意見が多かったです。

この記事をご覧になったみなさん!ラッキーです。この障害児余暇支援活動に参加するチャンスがあります。

3月27日(土) 10時~15時 場所:ハーモニーみどり2階 多目的研修室

※お問い合わせは、緑区社会福祉協議会まで。

地区社協紹介

長津田地区社会福祉協議会

●平成12年全国社会福祉協議会会長表彰・横浜市長表彰受賞 ●平成15年横浜市社会福祉協議会会長表彰受賞

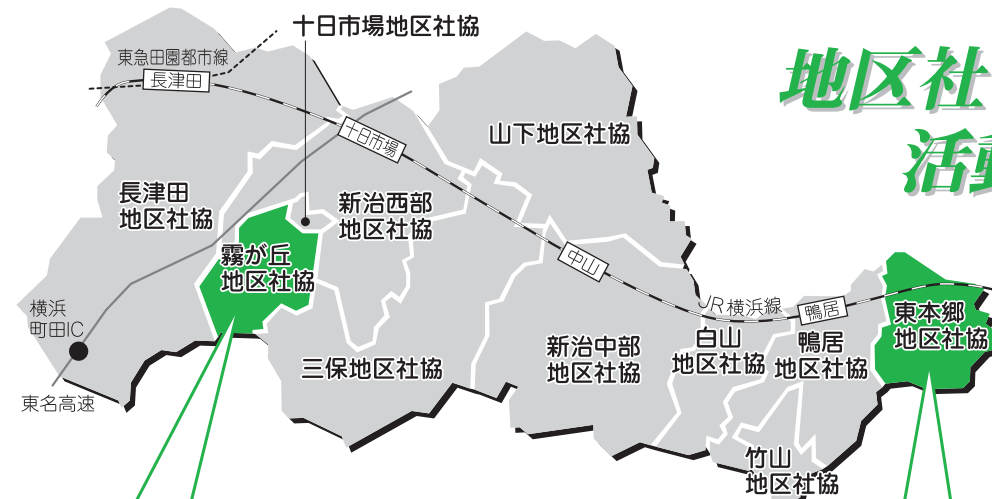
長津田地区社協は障害者と高齢者のリハビリ教室、ハンディキャブによる病院や施設への送迎活動、ボランティアによる手芸品作りが主な活動ですが、平成13年より「町ぐるみ健康づくり教室」を支援事業として始めました。自治会長さんにも協力して頂くことで輪を広げています。「毎回一人でも新しい人」をモットーに開催場所や行事を変えて行い、アンケートに新しい人の名前を発見しては喜んでいます。今回は健康教室を紹介します。



太極拳に挑戦し汗流す



体力測定で自分を知る



地区社協 活動紹介

霧が丘地区社会福祉協議会

幼い子どもは厳しい環境におかれています。民生児童委員と会合をもち10月から子育て支援グループの発足を決めました。第一小学校3Fの教室を会場に借り、毎月第三水曜日午前10時から11時に0~3歳児のお母さんに集ってもらい「子育てサロン」と名付けました。チラシ、掲示板など店舗、医院などで募集をし、第一回10月は25組で、60人くらいになり教室はあふれんばかりでした。11月は自治会の協力で落ち葉焼き芋会、12月はマラカスづくりと参加者は増える傾向です。

基金は1万円(社協)でお母さんの参加費100円を集めますが、学校・区役所に感謝申し上げさらなる支援をお願いします。



東本郷地区社会福祉協議会

ボランティア活動を30年近く多岐にわたり実施していますが、区内でも2番目になる程の高齢地域になり、見守りや介助の必要性を痛感し、区で福祉のモデルに指定して頂いたのを機に協議検討の結果、平成12年8月にボランティアセンターを発足させ、コーディネーター5名、補助要員5名で実務にあたっています。

移送サービスを手助け、ボランティア20名、また平成13年より家事支援も実施できる運びになり、ボランティア15名で活動しています。

安心して暮らせる町づくり、心の温かな優しい町に住んで幸せだと思える町になればと思います。皆さんが喜んで活動に参加協力して下さい感謝一杯です。

